

Ⅰ章 専門学校教員になるということ

Ⅰ. 専門学校教員の「新人」としての現在に目を向ける

あなたは「専門学校教員」？

「あなたは何者ですか？」こう聞かれたら、どのように答えますか。

名前で答える人、性別や国籍で答える人、趣味や出身地域で答える人、それぞれだと思います。なかでも多いのは、「専門学校教員です」や「〇〇士です」という職業での答えでしょう。

では、あえて、次の質問をしてみましょう。

「本当にあなたは、自分が専門学校教員になったと言えますか？」

専門学校教員の「新人」としての現在を意識する

「変な質問だな」や「失礼な質問だ」と感じた人も多いかもしれません。

そう、たしかにみなさんは専門学校教員です。それは間違いありません。しかし、あえてこの質問をしたのは、「専門学校教員になる」ということを広いスパンでとらえなおし、そのスパンのなかで自身がどの段階にいるのかということ、改めて考えてほしかったからです。

『HUNTER×HUNTER』（富樫義博、集英社）という漫画があります。主人公たちが「ハンター」という職業を目指し、ハンターとして活躍していく物語です。その物語の前半で、主人公たちはハンター試験に合格しハンターのライセンスを得るのですが、そのライセンスを得るだけでは、真の意味でハンターとしては認められず、仕事も紹介されず、活躍もできないことが描かれています。

このハンター資格を得たばかりの主人公たちと同じ段階にいるのが、今のみなさんです。たしかにみなさんは専門学校教員という「ライセンス」は得ました。その意味においては、「専門学校教員である／になった」とは言えるでしょう。しかし、「専門学校教員になる」ということを実質的に、かつ広いスパ

ンでとらえるならば、みなさんは、「専門学校教員になっていく」というライセンスを得た「新人」段階にいる、というのがむしろ正しい把握の仕方ではないでしょうか。

『HUNTER×HUNTER』では、ライセンスを得た主人公たちは、その後ハンターの世界のルールや現実について経験を通して学び、一方で、自分の特性を見極めて自分の能力を伸ばすことで、真の意味でのハンターへと成長していきます。専門学校教員の世界も、同じように考えることができます。専門学校教員が向き合う世界がそもそもどうなっているのか、そのルールは何かを把握していく。そのうえで、自分はどのような専門学校教員になりたいのかを軸にしながら、みなさんは「専門学校教員になっていく」のです。

<コラム：社会人・業界人としてベテランでも「新人」？>

3章でもふれますが、専門学校教員の多くは前職があります。そしてなかには、就業年数が10年以上の中堅・ベテランクラスの経歴をもつ人も多くいます。

「社会人経験10年未満の若手なら「新人」扱いもわかるけど、中堅・ベテランを「新人」扱いするの？」

「〇〇士と、〇〇士を養成する教員は同じ業界なのだから、業界人としては「新人」ではないのでは？」

きっと、そんな疑問もわいてくるはずですし、それらの指摘は決して間違いではありません。実際、多くの専門学校教員はこれまでの社会人・業界人経験を専門学校教育に活かしているはずです。これは、社会人や業界人という観点から、職歴と専門学校教員との関連性（教育学での「レリバンス」という概念にあたります）を把握するととらえ方になります。

しかし、一方で、職業（人）という観点に着目するならば、専門学校教員という職業と前職とは、「異なる職業」になります。実は、本書は、この職業的な観点を重視しているのです。その観点からすると、「社会人・職業人としてベテランでも、専門学校教員としては「新人」というとらえ方になる、と受け取ってもらえたら、と思います。

2. 専門学校教員って何だ？

あなたが考える専門学校教員とは？

では、みなさんが「なっていく」専門学校教員とは、そもそもどういう職業でしょうか。その点から考えてみましょう。次ページの表Ⅰ-Ⅰは、専門学校教員が行っている仕事について、整理するためのワークシートです。あなたの経験やイメージをもとに、表Ⅰ-Ⅰを埋めてみましょう。

<ワークシート検討中>

○「教育の仕事」と「教育以外の仕事」に2分類して、それぞれについてもさらに分類した表（枠組み）を作成して、そこに書き込む形で、専門学校教員が行っている仕事（業務）の幅広さを確認する。

⇒そのうえで、解説で、それぞれの仕事（業務）にはもちろん、必要な知識・技能・価値観（＝専門性）があるよね、という話へ。奥深さ。

<表Ⅰ-Ⅰ> ※1ページほどのスペース

--

ワーク解説～奥深い専門学校教員の世界

- ・こちらで用意したワーク回答例を提示する。
- ・ワークの解説を行う。専門学校教員の仕事の幅広さと、必要な専門性の奥深さの提示。

・奥深く幅広いからこそどこに重点を置いていくか？ただそれを知るために、何が共通になっているか知らないと探求できない。2章や4章などとも関連することを提示。

＜コラム：専門学校教員についての情報の乏しさ＞

・専門学校教員をイメージしにくいのは、専門学校教員に関する情報が社会的に欠如しているから。その現実と問題性について。メディアなどの情報のなさなどを指摘しながら。

3. 専門学校教員として働いていくために

新人にとってまず必要なことは、その世界になじむこと。そして、当然のことながら、みなさんがなじむべき世界は専門学校教員、そして、教員として働く専門学校という世界となります。

では、専門学校・専門学校教員という世界になじんでいくために必要なことは、どのようなことでしょうか？具体的な内容は後で詳しくみることにして、ここではその心得をおさえておきましょう。

専門学校・専門学校教員という世界を知っていく

新しい世界に入ったばかりの新人にとってまず必要なのは、その世界の見取り図とルールを把握すること。みなさんも、見知らぬ地域・国に旅行したり、新しいゲームを始めたりするとき、必ずガイドブックや説明書に目を通すはず。それは、「右も左もわからない」状態でその世界を出歩くのは、難しく危険だからです。

それは、専門学校・専門学校教員という世界に入っていくみなさんにも言えること。専門学校・専門学校教員という世界の見取り図とルールをある程度把握しておかないと、専門学校・専門学校教員という世界でやっていくこと自体

がそもそも難しい。

専門学校教員として新人であるみなさんは、まず、専門学校・専門学校教員とはどういう世界なのかという概要を知る必要があります。

たとえば、少しあげるだけでも、専門学校・専門学校教員を構成する要素はたくさんあります。

自分が入職した専門学校、学科、コースは具体的にどのような特徴があるのか？

専門学校教員とはそもそも何か？自分が属する専門学校教員の特徴とは？

専門学校生とは何者か？自分が属する専門学校生の特徴とは？

専門学校での授業とは？専門学校で身につけさせる能力とは？

授業以外の業務は？

専門学校教員に必要な専門性とは？それをどのように身につけるのか？

もちろん、上であげた以外にも専門学校・専門学校教員を構成する要素は多様に存在し、それらが複雑に入り混じっているのが専門学校・専門学校教員という世界です。なかなかその全体像をつかんでいくことは容易ではないのですが、心得として、その見取り図とルールを把握することを意識しておいてください。

＜コラム：新人が戸惑いがちな専門学校のルール・慣習とは＞
・開発委員会の先生方に書いてもらいたいところ。

4. 自分らしい専門学校教員になっていく

新人からメンバーに

こうした行為を繰り返していくなかで、みなさんは、専門学校教員という職業世界に次第になじんでいくでしょう。

一つひとつの行動に戸惑う場面は減っていき、むしろ、授業や指導等において、自信を持って行動できる場面が増えていきます。はじめは、実施することが困難な仕事に対しても、少しずつ慣れてきて、そのうちにその面白さ・魅力に気づいていくことになるはずです。そうした繰り返しの中で、みなさんはいつのまにか、新人から、専門学校教員の中心的なメンバーへと変化していくのです。

自分らしい専門学校教員になっていく

コラム：専門学校教員としてのメンバーシップ>

2 章 専門学校教員とはどんな仕事なのか？

1. 専門学校教員が携わる業務とは？

みなさん自身は、専門学校教員になる以前、この仕事にどのようなイメージを抱いていたでしょうか。多くの方は「授業をすること」が主な仕事だと考えていたかもしれません。次節でみるように、確かにそれも専門学校教員としての重要な業務の一つですが、それだけにとどまりません。すでに専門学校教員となられたみなさんの多くが実感しているように、その業務の内容は非常に幅広く、さまざまな役割を担うことが求められます。本節では、専門学校教員の業務の内容とその役割についてみていきましょう。

まず多くの教員が担当する授業以外の業務としてあげられるのは、クラス担任です。専門学校の多くは、高校までと同じようにクラス制をしています。担任として、生徒一人ひとりの学習や生活についての指導、サポートも行います。時には、生徒たちの保護者への対応も求められるでしょう。さらに、生徒たちの将来に関わる「就職指導」や「進路指導」も重要な業務の一つです。就職指導を例に挙げると、それは単に「履歴書の書き方」や「面接の受け方」といった形式的な指導をするだけではなく、生徒たちが参入していく業界との橋渡し役となり、彼ら／彼女らが適切な進路を選び、社会人・職業人として成長するための支援です。この点で、専門学校教員は、生徒と業界とをつなぐ「ハブ」としての役割を果たしているといえるでしょう。

上記と関連する専門学校教員の業務として、「業界との連携やネットワークの形成」もあげられます。専門学校教員として働く中で業界との距離ができてしまうことで、専門学校教員となる以前に身につけた知識やスキルが陳腐化してしまうことが、先生方にとっての一つの悩みとしてあげられることがあります。業界の動向や技術・スキルなどを自ら積極的に学び続けることで、生徒たちに常に最新の情報を提供できるとともに、上記の「陳腐化」を防ぐこともできるでしょう。さらに、その過程で業界とのつながりを強化していくことによって、生徒たちの実習先や就職先を広げたり、自身が日々行っている授業や指導を改善していったりすることにもつながるでしょう。

一方で専門学校「職員」としての役割も求められます。教育計画やカリキュラムの立案といった、いわゆる「教務」にかかわる仕事や、オープンキャンパスや入試業務などの学生募集にかかわる「広報」の仕事もその一部です。これらはいずれも、専門学校の運営に直接かかわる重大な仕事です。

専門学校教員は、各分野の専門家であることが求められます。それぞれの分野における実務経験や知識、スキルなどを活かしながら専門学校生に対する教育や指導にあたることは、いわば「職業領域における専門家」としての強みを活かすということでもあります。この点で、専門学校教員には各分野のスペシャリストとしての力量が求められます。他方で、ここまで見てきたような幅広い業務に対応していくためには、ゼネラリストとしての力量も必要です。スペシャリスト＝専門性とゼネラリスト＝汎用性の両立が専門学校教員には求められるといえるでしょう。

次の節では、専門学校教員の意義について見ていきます。意義を把握することは、初期キャリアを乗り越えていくためにも重要です。専門学校教員の意義はたくさんありますが、ここでは、みなさんが相対する学生たちにとって、専門学校教員はどのような意義を持つのかという観点から、2つの側面でその意義を整理しておきましょう。

2. 専門学校教員の意義①-学校領域の「最後の教育者」として

3. 専門学校教員の意義②-職業領域に誘う「最初の教育者」として

専門学校教員は、職業世界に接近する学生たちに必要な知識・技能・価値観等を身につけさせていくための職業的社会化の初期段階の支援を担っています。専門的な知識・技能や資格取得はもちろん、参入する業界の価値観や非認知能力を身に付けることも職業世界に参入していく上で重要になり、それらの育成を支えています。

専門学校教育の最大の特徴は、実践的な職業教育を提供することにあります。大学は一般的に、学問的な知識を探究したり、理論的な教育を提供したりすることを重視しています。これに対し専門学校は、特定の職業に特化した知識やスキルを実践的に修得させることを重視します。

専門学校には、大きく 8 つの分野（工業、農業、衛生、医療、家政、商業実務、教育・社会福祉、文化教養）がありますが、各分野における「即戦力」となる人材が育成されています。そして、このような職業実践的な教育の一環として、企業との密接な連携によるカリキュラムの設計や授業・実習が取り入れられています。専門学校生は、そうした実践的なカリキュラムにもとづいた授業や実践を往復しながら、「即戦力」としての力を身につけているのです。

専門学校進学者の多くは、こうした分野ごとの職業世界や実践に対して非常に強い興味や関心を持っています。そのために必要な「資格取得」など、目的意識が明確

であることも特徴です。このような、学びに対しての積極的な態度＝学習レディネスを持っていることが、専門学校生の大きな強みだと言えます。

こうした生徒の特性に応じた教育の工夫が、専門学校教員には求められます。例えば、生徒の興味・関心を引き出しながら、それを学びにつなげていくような授業設計や、就職や資格取得といった生徒の目的意識に直結する具体的な内容を取り入れることが有効でしょう。私たちの行ってきた調査では、専門学校生の多くが、高校以前は持つことのできなかった授業への関心をもつとともに、専門的な学習を通じて多様な能力を身につける経験をしていくことが明らかになっています。こうした経験は「学びの回復」とも表現することのできる重要なプロセスです。

ところで今、専門学校生は「専門的な学習を通じて多様な能力を身につける」といいました。ここでいう「様々な能力」とは、具体的にどのようなものなのでしょう？その代表的な例としては「社会人基礎力」や「非認知能力」があげられます。「社会人基礎力」とは、職場で必要とされる基本的な能力であり、例えば、チームで協働する力や、問題を発見し解決していく力などが含まれます。一方「非認知能力」は、例えば自己管理能力や自ら積極的に学ぼうとする力など、行動特性にもかかわる能力です。専門学校では、こうした能力が授業や実習のみならず、あいさつや清掃といった日常的な指導の場面を通じて培われています。以上のような「多様な能力」の育成も、専門学校教員に求められるといえるでしょう。。

おわりに

本章をつうじてみてきたように、専門学校教員の業務は、授業にとどまらず非常に多岐にわたっています。各分野における専門的な教育をつうじて、生徒たちを社会へと送り出していくことは専門学校教員の重要な役割ですが、上記のような業務の幅広さゆえに専門学校教員として働かれているみなさんのなかには、入職時にギャップ（例：授業がメインだと思っていたのに！）を感じた方もいらっしゃるでしょう。あるいはそのようなギャップから生じる困難によって、「この先も続けていけるだろうか…」と不安を感じている方もいるかもしれません。そのようなときには、一人で抱え込まず、同僚や上司にあたる教員に相談するなど、学校全体を一つのチームと捉えて行動していくことが大切です。第3章では、専門学校教員としての初期キャリアに注目し、この時期に生じやすい困難とその克服の様子を、具体的なケースにもとづきながら見ていきましょう。

3 章 専門学校教員の初期キャリアについて考える

本章は、専門学校教員の初期キャリアの特徴と、初期キャリアで生じやすい困難やその克服について、事例を交えながら示していきます。なお、本章では、「初期キャリア」を着任してから1～3年目を指すこととしていきます。

追記予定：※専門学校教員の初期キャリアについて考えることが大切である理由について、キャリアオーナーシップを持つことが大切であるという関係で記載する。

1. 教員になる前の経歴・職歴との関係で、初期キャリアの特徴を知る意味

まず本節では、専門学校教員の初期キャリアの特徴を理解していくにあたって、教員になる前の経歴・職歴について考えていきます。専門学校教員になる人は、どんな経歴・職歴を持っているのでしょうか。その答えは、非常に多種多様です。具体的には、自身が勤務している学校と関連する業界で勤務した経験がある場合・ない場合、専門学校で教育を受けた経験がある場合・ない場合、教育に関する知識や仕事の経験がある場合・ない場合など、人によって異なっています。

小学校・中学校・高校の教員と比較してみましょう。例えば、小・中・高の教員は、新卒採用が主流ですが、専門学校教員は中途採用が中心です。また、専門学校教員は、専門学校で教育を受けた経験がない（例：大卒で専門学校教育を受けた経験がない等）状態で就く割合が多いです。また、教職課程といったような、教員養成制度も、専門学校教員には存在しません。

このことから、専門学校教員の経歴は非常に多種多様であることが当たり前であり、人によって持っている知識やスキルが異なっているという事が分かります。そのため、専門学校教員一人一人が持っている強みや弱みが異なっているといえます。

さて、それではなぜ、経歴・職歴との関係で初期キャリアの特徴を考えることが大切なのでしょうか。本章冒頭で、「専門学校教員になること・キャリアオーナーシップ」について説明をしましたが（※）、専門学校教員の初期キャリアでは、過去の経歴・職歴で獲得してきた知識、スキル、経験を活用しながら、専門学校教員としてどうキャリアを歩んでいくのかを意味づける側面が強い段階であり、経歴・職歴が初期キャリアの歩み方に影響を与えやすいと考えられます。そのため、自分自身の経歴・職歴を改めて振り返り、それが初期キャリアにどんな影響を与えることとなりそうかを考えることで、自身の課題や強みに気づくことができ、初期キャリアをスムーズに歩んで

いきやすくなるといえるのです。

それでは次の節では、経歴・職歴が初期キャリアに初期キャリアに与える影響例について考えてみましょう。

2. 専門学校教員の初期キャリアの特徴

(1) 経歴・職歴が初期キャリアに与える影響例 ※下記の表を基に文章記載。

経歴・職歴	初期キャリアに与える影響(例)
①専門学校教育を受けた経験・勤務経験の有無	専門学校で働くことについてのイメージの解像度
②社会人としての経験年数 新卒採用か中途採用か	専門学校生との距離感(年齢の近さ)や指導力
③これまで従事してきた業界・職種との関連性	着任した専門学校で求められる力を発揮できるかどうか、教える知識がどう現場で役立つかのイメージの解像度
④教育に関する知識を有しているか	専門学校教員として授業を適切に行えるか、自身の経験を「知識」として教えられるかどうか

(2) 事例を基に考えましょう

下記の事例を文章化予定。

①専門学校教育を受けた経験・勤務経験の有無と初期キャリアの関係

例1 専門学校で教育を受けた経験がない先生の事例
私は大学卒業をしているため、専門学校の事は正直よくわからぬまま入ってきました。専門学校は、就職活動を教員側が一人一人支援したり、不登校の学生を支援するなど、大学と比べてかなり手厚いことは分かるのですが、正直、そこまでしなくちゃいけないんだと、ギャップが大きかったです。



特徴:専門学校に通ったり、教育をした経験が無いと、専門学校で働くイメージを掴んでいない状態で、勤務することとなる
専門学校教育の役割を知る機会が十分でない、専門学校で求められる教育に対し

②新卒採用・中途採用であることと初期キャリアの関係

例3 専門学校卒業後すぐに教員になった先生の事例

私は、専門学校を卒業して直ぐに、資格取得のための座学系の授業を担当する先生になりました。学生とは年齢がほとんど変わらないため、相談しやすいのか、色々な話を聞くことが多いです。ただ、教員である以上、距離の保ち方に苦労することもあります。最近では部活の先輩、といったイメージを自分なりにして、指導にあたるようにしています。



特徴:専門学校教員の採用は中途採用が多いが、新卒の場合もある。
新卒の場合、学生と距離が近く、コミュニケーションを取りやすい等が考えられるが、経験が限られているため、教員としての振舞いや指導に悩むこともある。

①専門学校教育を受けた経験や勤務経験の有無と初期キャリアの関係

例2 専門学校出身の先生の事例

私自身、専門学校出身なので、専門学校での授業の様子は分かるし、先生の指導のイメージなど、なんとなく理解できているつもりでした。業界である程度働いてから、専門学校教員になりたいと思っていました。でも実際に教員になってみると、自分が学生だった時の学生イメージと、今の学生の実態がかなり異なっており、教え方については、正直戸惑っています。



特徴:専門学校に実際に通っている場合、教育イメージを持ちやすい。他方で、自分が学生だった時代の学生像のイメージが強い場合、今の学生との違いにギャップを感じやすくなる場合もある。また、母校就職の場合、同僚の先生に対し、学生の頃に抱いていた印象が強く、先入観を持ったまま見してしまうことで、関係性に良くない影響を与えてしまうことも。

20

③これまで従事してきた業界・職種と初期キャリアの関係

・着任した学校が対応する業界と、職歴と関連性がある場合
→業界で求められる知識や技能、態度などがイメージしやすい

・着任した学校が対応する業界と、職歴との関連性が無い場合
→業界の理解というところからまず必要

特徴:これまで従事してきた業界・職種と関連する専門学校に着任し教員になった場合は、過去の知識やスキルを活かしやすい。しかし、関連性が無い場合は、着任した専門学校が対応する業界を理解することからはじめる必要がある



22

④教育に関する知識を有しているか否かと
初期キャリアの関係

- ・分野によって教育に関する研修を受けた上で先生になっているかどうか異なる



- ・教員免許免許を持っている、初等中等教育学校教員経験があるかどうか

特徴：教育そのものに関する知識・技能等を既にある程度持ったうえで、専門学校教員になる人は少ないため、初期キャリアでは「教える」「今の学生の学び方」を学ぶことが多い場合求められる

23

(3) ワーク

専門学校教員の初期キャリアの特徴の事例は、いかがでしたか？ご自身にもあてはまるものもあれば、「こんなケース」もあるのか、と考えた人もいるかもしれません。それでは、(2)の事例を参考に、実際に、自身の専門学校教員としての状況を、ワーク①②を通じて整理してみましょう。

下記のスライドを基に文章やワークシート欄を作成予定。

- ・自身の経歴・職歴を振り返ることで、それが専門学校教員の初期キャリアでどんな影響を与えることになるのかを考えることができる。また、自身のこれまでの経験が専門学校教員になるうえでの強み・弱みとなりそうなポイントを書き出すことで、今後専門学校教員の初期キャリアを歩んでいくにあたっての課題を認識することができる。
- ・自分以外の先生と意見交換を通して、抱える悩みの共有をしたり、自分とは異なるタイプの先生もいることを知ったりすることで、自身の位置づけを客観的に捉え直すことができる。

- ・ワーク① 専門学校教員としての自身の状況を整理しましょう。

項目	回答	備考欄
専門学校で教育を受けた経験の有無	有り・無し	
専門学校で勤務をした経験の有無	有り・無し	
新卒採用or中途採用	新卒・中途	
学校が対応する業界とこれまでの職歴の関連	関連強い・関連弱い	
教育に関する知識・技能等を持っているか	持っている・持っていない	

ワーク②の記入イメージ

- (1) まず「あなたの経歴の中で、どんな知識・技能や、力を獲得できていると思いますか?」を書き出してみる(数を出す!)

例:〇〇業界で***担当として勤務してきたため、***に関する知識やスキルは一通り持っている。また、〜の業務が中心だったため、交渉力や、〇〇性などは培ってきたように思う。

- (2) (1) が、専門学校教員として、どんな強みとなりそうか、あるいはどんな課題を抱える可能性があると思いますか?

例:〇〇業界で、営業担当だったため、他者とコミュニケーションをとるのは得意である。そのため、生徒に対する声掛けやコミュニケーションは自信がある。ただ、事務作業などあまり経験してきていないため、学校での〇〇の場面では、***を行うことに課題を感じるようになるかもしれない。

28

3. 初期キャリアで経験する出来事(特に抱えやすい困難など)

2節では、初期キャリアで経験されやすいくと、特に困難に着目して事例を基に紹介していきます。下記のスライドを基に説明予定。

困難の事例①(教育業務の幅広さ) A先生

専門学校のイメージがあまりない状態で教員となり、最初は授業がこなせば良いのだと思っていました。しかし、実際には、専門学校は、一人一人に寄り添う教育がとても大切で、オープンキャンパスや就活サポート、不登校学生への対応など様々なことがあり、1年目は、ひたすら「こなす」ので精一杯でした。

2年目になると、学校のスケジュールは毎年大きく変わることはないのですが、ある程度流れがつかめるようになってきました。2年間務めると、ある程度学生の入学〜卒業までの姿をみることで、学生の変化や成長を感じ取ることができ、特に卒業式は、自分がやってきたことが意味のあるものだったと思える瞬間で、この仕事の大きな醍醐味です。

専門学校教員として求められる幅広い教育業務を行うことに対し、戸惑うパターン。専門学校教員は、授業、担任、学生相談、保護者対応など様々な業務を経験する。どの業務も、学生の成長を促すための重要な仕事であるが、それが学生にとって、どんな意味を持つのか、実際にどんな成長をもたらしているのかを理解していく必要がある。



困難の事例② (職業人/教育者としてのふりまのギャップ) B先生

業界で自分が働いている時は「見て覚える」で教えられてきました。しかし、いざ学校で教えるというときは、しっかり言語化して伝え、指導しなくてはいけないと感じました。

また業界では、会社側がお給料を出しますが、学校は授業料をもらった上で指導をする立場になります。いかに「学生を伸ばす」視点で、教えることが大事であるか、考えさせられます。

業界での新人教育と、学校での教育は違うという事を理解する必要性がある。専門学校では、業界で求められる知識・技能・態度を言語化し、学生が伸ばす工夫をしながら教えていくこと、について意識していくことが重要!!



困難③(専門学校教員の働き方) C先生

業界では「スペシャリスト」として勤務してきました。でも、専門学校教育は、専門的な知識・技能・態度を教えることはもちろんですが、学生の成長をサポートするための様々な教育が重要で、専門学校教員は「ジェネラリスト」としての側面が求められると思います。

急な学生対応や週末のオープンキャンパスの対応など、働き方に柔軟性を求められることもあるため、前もって周りの先生との連携や相談しながら進めていくなど、チーム体制でいかに、働いていくかが大切であると感じるようになりました。

専門学校教員の業務を「職業専門的なことを教える」や「固定的」といったイメージを持っている場合、ギャップを感じやすい。実際には、学生の就職支援や、生活習慣レベルの指導など、多様な柔軟なサポート・対応が求められることの自覚が必要!!



3. 初期キャリアの困難をどのように克服していくか？

(1) 個人で／チームで乗り越える

チーム体制による学生対応の例 ～D先生の場合～

担任業務でうまくいかないことがありました。もと
もと1人で抱え込みやすい性格だったこともあり、
初めは相談ができませんでした。
しかし周りの先生方が心配してくださったこと、ま
た私の勤務校では、クラス担任以外の先生も、学
生の相談に応じる体制があったため、それを活用し
て、チーム体制で、問題を解決することができまし
た。



44

(2) 先輩教員の授業見学や先輩への積 極的な相談～E先生の場合～

私は、着任して最初のときは、先輩の先生の実習
授業を見学する機会があり、そこから先輩の授業
の仕方を学びました。また、私の学校は、教育に関
わるマニュアルがなかったため、とにかく、先輩に
聞くという事を徹底しました。
その中で、同僚の先輩の先生に多くの事を教え
てもらい、成長できたと思います。そして、今は中堅
になりましたが、先輩に教えてもらったことを、自分
が伝えていけるように頑張っています。



45

新任教員だからこそ気づける課題がある →「チーム」を高める重要な機会

レジリエンス：困難に直面した際に、立ち直り、回復するための能力やプロセス

- ・能力としてのレジリエンス：困難からの回復に必要な個人の能力や特性
- ・プロセスとしてのレジリエンス：困難な出来事から回復する一連の過程

	レジリエンスが高いチーム	レジリエンスが低いチーム
課題への 対応の仕方	・チーム内での共有が早い ・困難を課題に落とし込み 期限と担当を決めて 対応する ・チームでストレスをケアする	・周りに知られないように個人 で困難を抱える ・担当するのが嫌で課題や困 難を放置する ・チーム内で不満が募る
困難から学ぶ	・困難を広く共有する ・困難から教訓を得る ≡ 次の新人への資産に・・・	・困難を乗り越えても振り返り をしない ≡ 教訓として残らず、同じ問題 がまた次の新人に発生・・・
被害を最小化する	・困難になりそうな点の早期 発見、事前対応	・後手後手の対処で被害が大 きくなる

46

→ 1人で抱え込まない、サポート体制の活用的重要性を書く。

②表彰制度を通じたモチベーション向上

(3) 表彰制度を通じたモチベーションの向上～F先生の場合～

私は、専門学校教員として着任した当初は、なかなか授業がうまく行かず苦勞し、先輩教員から注意を受けることもありました。

しかし、学生のために少しでもいい授業をしたい!と日々努力をしていく中で、学生アンケート評価の評価も上がっていききました。私の学校では、学生評価アンケートが高評価だった先生を表彰する制度があり、そこで優秀賞をいただきました。表彰を通じて自信を持つことができ、今も、学生の成長につながるような指導を頑張りたいと思っています。



③目指す教員像の修正

(4) 「目指す教師像」の修正 ～G先生の場合～

～G先生の場合～

私は着任当初は、「みんなに好かれる」先生になりたいと思っていました。でも、学生の成長過程を見ていく中で、「好かれる」かどうかではなくて、学生をいかに成長させることができるかが、大事だと感じるようになりました。今は、「成長できるように指導できる先生」を目指しています。

私が一番、専門学校教員としてやりがいを感じるのは、卒業後に、卒業生が遊びに来てくれたときですね。



→「他者評価」も踏まえながら修正する、「自己認識」「バイアス」を修正する

初期キャリア段階では、様々なできごとに直面することがあると思いますが、大切なのは、1人で抱え込まないことです。所属する専門学校で、どんな研修やサポート体制があるのか、改めて確認をしたり、先輩教員に積極的に相談をしたりすることで、チーム体制で課題を解決していく意識を持つことが大切になっていきます。

第4章 「専門学校教員になっていく」ための学びをデザインする

3章では、専門学校教員が初期キャリア（着任して1～3年目くらい）において直面しやすい、いくつかの困難を取り挙げるとともに、それらの困難に先輩教員たちがどのように向き合い、克服してきたのかその方法（先輩・学校のサポート体制の活用等）や困難と向き合っていく上でのモチベーション維持の工夫（アンケート・卒業生の送り出し等）について紹介してきました。「専門学校教員になっていく」上で、こうした日々の経験からの学びが大変重要であることは疑いないものですが、経験からより効果的に学ぶためにも、専門学校教員として、これからどのような知識や技能、価値観・態度を身に付けていく必要があるかやその獲得のための手段について見通しをもっておくと、より効果的な学びやキャリアの開発につながるでしょう。この章ではそのためのポイントを紹介していきます。

1. キャリアステージや目的に応じた既存研修を軸に 自身の学びをデザインする

専門学校教員になっていく上で、最初に参考にしていただきたいのが、さまざまな専修学校のステークホルダーが提供している既存研修です。専門学校教員を対象とした研修受講に関する実態調査の結果をみると（三菱総合研究所, 2023）、学校法人や所属先の学校・学科が企画した研修、関連業界団体が提供している研修、その他都道府県の専修学校団体や企業が提供している研修、など実に多様な研修に参加していることが確認されています。

その背景には、多くの専修学校が、自校だけで体系的な研修を設計・提供することが難しいという状況があります。そこで現在は、関連する業界とうまく役割分担をしながら、キャリアステージや目的に沿って必要な研修を提供しようとしています。表Aにあるような情報も参考にしながら、受講してみたり、あるいは学校・学科単位の研修として実施してもらえないか相談してみると良いでしょう。

表A：ステークホルダーの役割分担別 力量形成に関わる研修

「学び」を提供してくれる関係者はさまざま →学校以外にもリソースは存在

	学びの提供	学びの提供、支援、連携の例
本人(自己研 修)	自己研修を通じてしか能力開発が できない部分を教える。	・ 実践力向上の研修(研修) ・ 授業力向上の研修(研修) ・ 生徒理解・生徒指導の研修(研修) ・ 授業力向上の研修(支援)
学校の関係	自身のノウハウを提供する、知事側 や指導者を支えることなどを通じて、 他の教職員を支援。	・ 指導教職員支援力向上の研修(研 修) ・ 指導者への対応力向上の研修 ・ 企業等との連携力向上の研修(支援) ・ 生徒理解・生徒指導の研修(支援)
学校(法人)	学校(法人)の責任として組織的な 研修体制の構築に努める。 ・ 学校(法人)独自の研修を実施しな ければならない研修を行う。	・ 職業デザイン・キャリア開発の研修 ・ 学校の経営・マネジメントの研修 ・ 企業等との連携力向上の研修 ・ 生徒理解・生徒指導の研修 ・ 指導力向上の研修 ・ 指導者への対応力向上の研修
関係団体	最新の職業人を育成している教育 機関である専修学校支援の一環と して、実践力向上や指導者への 対応等を支援。	・ 職業デザイン・キャリア開発の研修 ・ 学校の経営・マネジメントの研修 ・ 企業等との連携力向上の研修 ・ 生徒理解・生徒指導の研修 ・ 指導力向上の研修 ・ 指導者への対応力向上の研修

図表出所：

令和5年度文部科学省委託事業「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の
推進」「職業実践専門課程等の質保証・向上のための調査研究報告書」より引用

56

図表出所：

令和5年度文部科学省委託事業「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推
進」「職業実践専門課程等の質保証・向上のための調査研究報告書」より引用

慣れない役割や業務への適応で余裕がない時もあるかもしれませんが、専門学
校教員としてのキャリアに足を踏み入れたばかりの方にとっては、まずはこうした既存
研修をうまく活用しながら、キャリアに必要な学びを進めてみることでもっと何を学
ぶ必要があるかが明確になっていきます。キャリアの見通しをもつという点でも研修
参加は大いに役立つでしょう。

一方で、専門学校教員になられた方の中には社会人として既にかなり長いキャリ
アを歩まれてきた方もいれば、比較的短い社会人経験を経て、教員になられた方も
いらっしゃると思います。こうした自身のこれまでのキャリアをふまえ、研修で何を学
ぶ必要があるか、その優先度を考え、自分なりにカスタマイズしていくことが必要で
す。

例えば、多くの学校法人が、入職直後に自校の教育方針を理解するための研修を
実施しますが、その後どのようなタイミング、頻度で授業力向上や生徒理解・指導、
専門学校教員という職業と向き合うか職業アイデンティティの理解についてどれくら
い学びの機会を確保するか判断は学校によってまちまちです。またどのような立
場・役割を期待されて入職したか(これまでの業界での管理職経験を評価され、近
い将来学科や学校経営に携わることを期待されて入職したのか、ある程度若手で、
学生に対する専門教科の授業を担う即戦力教員として入職したのか)によっても、学

ぶ必要のある内容は大きく異なってくるでしょう。表 B はキャリアの時期別に整理された研修一覧です。自身のこれまでのキャリアや課題認識に応じて必要な学びを選択していくと良いでしょう。その際、身近な先輩や学校の教育担当の方にどのような研修を受けるとよいかアドバイスを求めてみることをお勧めします。

表 B：教師のキャリア別 力量形成に関わる研修

新任教員として どのような「学び」が必要だとされているか？

研修概要	研修対象	特徴
職業アイデンティティ理解の研修※	- 入職直前・直後すみやかな提供が必要 - 役職問わず全員に提供	- 学校外の団体等が提供する形でも良い、オンデマンド学習等も可 - 他校の教職員との合同実施も有効
就任した役職理解の研修	- 役職責任の直前・直後すみやかな提供が必要 - 当該役職昇進者に都度提供	- 学校外の団体等が提供する形でも良いが、各学校特有の事情を反映すべき - オンデマンド学習や読み物資料等も可
学校の教育方針理解の研修※	- 入職直前・直後すみやかな提供が必要 - 役職問わず全員に提供	- 学校経営層が実施する必要あり - オンライン配信、オンデマンド学習も可能だが、深く理解するためには、他の教職員との交流の中で研修を受けることが重要
授業力向上の研修※	- 授業担当ようになった前後 - 新任教員	- 早期の提供が必要 - 多様な学習形態を組み合わせることが重要、特にアクティブ・ラーニング要素が必要 - 他校の教職員との合同実施も有効
後輩教職員支援力向上の研修※	- 入職後数年経過後、後輩教職員が入職した時期 - 新任教員	- オンデマンド学習や読み物資料等で他校の事例を知ることが有効 - 他校の教職員との意見交換が有効

図表出所：
令和5年度文部科学省委託事業「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」「職業実践専門課程等の質保証・向上のための調査研究報告書」より引用

54

図表出所：令和 5 年度文部科学省委託事業「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」「職業実践専門課程等の質保証・向上のための調査研究報告書」より引用

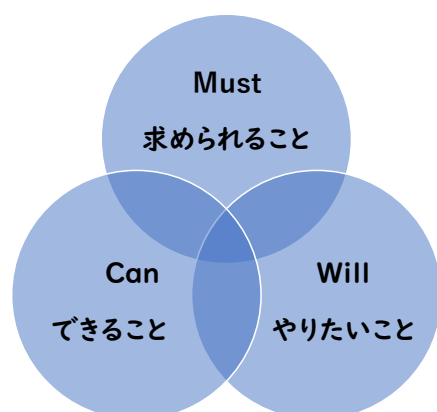
2. 将来の「ありたい自分」を軸に自身の学びをデザインする

もう1つ専門学校教員としてのこれからの学びをデザインする上で大事にしていたきたいのが「ありたい自分」という軸です。

今回、教員になられた方の多くが前職で何らかの仕事を経験されてきており、今は専門学校教員という職業に一日でも早く慣れること、適応していくことをお考えかと思えます。これから専門学校教員としてのキャリアを長く継続していきたい方にとっては、1 節で取り挙げた情報を参考に専門学校教員として必要な能力やスキル、価値観・態度を、適切な時期に形成していくことは、専門学校教育業界の中で、学び続

けるための関係性を維持・開拓したり、教育の専門家として実践知を学生に還元したり、職業の専門家として知識技能を更新したりしていく上で助けになるでしょう。初めから明確にありたい姿や教員像を
持てている人はいないので、まずはやるべきことから進め、できることを増やしていくことが初期キャリアにおいては重要です。

教員としての「強み」や「やりたいこと」は 「求められること」を行うなかで出てくる



新人教員として
≠ 社会人として

Must → Can → Will（「教員」になれないと続かない）

求められることをやっていくうちにできるようになり、できることが増えることで自分の裁量が広がり、次第に「やりたいこと」が見えてくる・・・

55

一方で、「人生 100 年時代」で生涯学び続けることの重要性が指摘されている現代において、専門学校教員のキャリアで職業人としてキャリアを終える人は圧倒的に少ないでしょう。よって「専門学校教員」という役割や立場から得られる経験を、いかに次のキャリアや「ありたい自」の実現に生かすかを自分なりに検討、定期的に棚卸しておくことが重要です。そのためには所属先の学校や業界主導だけでなく、自らキャリアや人生の可能性を切り拓くという意識で、日頃から新しい学びを広げておくことがこれまで以上に必要になっています。ここで A 校の先生の教員キャリアに関する事例をみてみましょう。

学生時代からずっと動物看護の仕事に魅了されてきた。
4大に通っていたが、動物看護を仕事にしていくことに決める。

動物看護の教員として働く中で何か専門性を持つ必要性を感じ
検査の専門性を高めるために一度教員から離職。
経験とスキルを高めた上で再度教員として復帰。

その後、2校目の学校でマネジメント職まで担うようになる。
ただ人間関係の問題や、自分の卒業生が就職先の環境にうまく
適応できずに離職していく状況に課題を感じ、
再度教員を離職。就職先の労働環境を改善するためにNPOの代表に。

現在はNPOの活動と非常勤の教師との両方に取り組むことで、
動物看護士の育成とその先の就職先の労働環境の改善に取り組んでいる。
どちらか一方ではなく、両方をやることで相乗効果を出している。

動物看護に関わる人が「幸せになる」ことが自分の実現したいこと。

- キャリアの過程で一度教員を中断して自分の専門性を高めている
- 積み重ねてきたキャリアを踏まえて教員としての働き方を調整している
- 教師とNPOの両方のキャリアを大切にすることが、A先生の
人生の幸せ、教員としてのやりがいにつながっている

これから専門学校教員としてのキャリアをスタートさせていく中で、定期的に自身が
歩んできたキャリアを見直しながら、将来「ありたい自分」に近づいていく上で、専門
学校教員という職業からどのような知識や技能、価値観・態度を獲得することできる
かを考えていくとよいでしょう。

このことは「ありたい自分」に近づくためだけでなく、教え、教わる関係だけではな
い——「よき社会人」として、教員自ら学びを通じて自分の人生を豊かにしたり、充
実したキャリアを歩んでいる、その姿勢・態度を学生に見せていくことが、これからの
学校教育や教師の役割としてより一層求められていく可能性があります。